

いなかのりんじん  
あぐろげいとーん

編集：九州教区教会協力委員会

※あぐろげいとーん：ギリシア語で「田舎の隣人」の意味。都会の隣人と違い、互いに支え助け合う仲間となることを願って。

## 小さな群れよ、恐れるな

教会協力委員長 深澤 奨

## 宿題

友だちの牧師から宿題をもらった。会衆がオルガニスト一人だけとか、或いは一人もいないとき、牧師はどんな礼拝を捧げたらいいか。心細さ、孤立感、無力感を覚えざるを得ない状況の中で、むしろそのようなときにこそ礼拝によって支えられ、養われ、慰められるような、そんな礼拝の持ち方を、そんな礼拝式文を考えてくれないか、と。このところずっとその宿題を思い浮かべては、あれこれ考え続けている。

一つ僕にはヒントになる経験がある。高校時代にカトリック研究会というサークルに入っていた。週に一度イエズス会の神父でもある生物や英語や倫理学の先生といろんなことを語り合った。テスト前のある日、他の生徒は誰も来ず、僕と神父と二人きりの時があった。神父はおもむろに聖体拝領（僕らの言う聖餐式）の準備をして、僕の目の前でとても美しい所作でミサをあげた。こういう寂しいときこそ聖体拝領だよと神父は言った。



僕はその時確かにキリストの現臨を感じ、その小さな部室が世界とつながり、世界に開かれているような感覚さえ覚えた。世界中どこでも、どんな人数であろうとも、同じ式文、同じ所作、同じ歌を歌いながら行われるミサにはそんな力があって、それはカトリックならではのものだろう。各個教会主義の強いプロテスタント教会には、残念ながらそれは望むべくもないことなのだろうか。

## 一つの企み

初任地の小さな伝道所で働いていた頃、主日礼拝は少ないときでも五、六名の出席があったが、水曜夜の聖研祈祷会には誰も来ないことが度々あった。それなりに一生懸命準備したことを分かち合おうにもその相手がいないというのは、とても凹むことだった。牧師はたとえ数名の会衆であっても、百名の会衆であっても、聖書研究や説教の準備には同じ労力を費やす。数名を相手に語られる説教が、百名を相手に語られる説教よりも劣っているなどということは断じてなく、むしろその反対のことの方が多いのではないかと僕は思っている。

そのことを証明するために、僕は今こんなことができないかと企んでいる。宿題の依頼主の教会で、数名の会衆を前に語られている礼拝説教のリアルタイム映像をそのままインターネットを經由して、たとえば佐世保教会の礼拝中、講壇にプロジェクタで投影する。スマホのビデオ通話の機能とスマホ画面をプロジェクタ

に送るラインさえあれば今や簡単にできることである。そしてできれば反対に佐世保教会の会衆を写した映像を向こうの教会に投影するのもいいだろう。その日の席上献金はもちろん両教会で取り換えっこする。そんなふうにして、つながりを覚え合い、孤立感を取り除き、それぞれの教会が持つ豊かさを互いに分かち合っていくことはできないだろうか。そんな企みである。

## 神の業への参与

今、常置委員会では来年度から新しくなる宣教基本方針の策定作業を進めている。草案が既に示され、宣教会議でも議論された。4項目にまとめられた宣教基本方針(案)の第2項は「神の業に参与する礼拝を捧げ、福音を広く分かち合うことに日々努めます」となっており、そこに【解説】として「たとえ『小さな群れ』であっても礼拝を捧げることが神の業全体への参与であることを確認するものである」との説明を付す方向で常置委員会は話し合っている。「小さな群れ」がま

すます小さくなり、心細さや孤立感を深めつつある九州教区の状況を踏まえてのことであろう。たとえ牧師と数名の会衆で守られる礼拝であっても、あるいは牧師一人、または信徒一人の礼拝であっても、それは神の業全体への参与であり、その意味において僕らの礼拝は、互いにつながりあい、響きあっているはずだ。そのことをいかに意識に上らせ、具体的に目に見える形で表していくかが問われている。

福音書の中でイエスはこう語っている。「小さな群れよ、恐れるな。あなたがたの父は喜んで神の国をくださる(ルカ12:32)」「二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいるのである(マタイ18:20)」これらの御言葉の真実を証しする九州教区でありたい。そして教区の互助はそのための大切な働きなのだと思いたい。



### 各地区委員長からのメッセージ②

#### 「求めに応える恵みと癒しを」

鹿兒島地区委員長 坂田茂  
(指宿教会)

2016年度、鹿屋伝道所の代務者になりました。鹿屋伝道所は直線距離では指宿教会に最も近い位置にあります。が、この間には鹿兒島湾があります。そして鹿屋市は大隅半島の中ほど、指宿は薩摩半島の最南端にあります。陸路で移動するとなると北上して一旦鹿兒島湾の最奥まで行き大隅半島にまわり半島の中ほどまで南下しなければなりません。指宿から大隅半島ははっきりと見えるのですが、海の向こう側です。

幸い、指宿市からほぼ真東にある南大隅町根占にフェリーが渡っています。月

に一度の鹿屋伝道所の礼拝には、このフェリーで対岸に渡り鹿屋まで北上するのでそれほど走る必要がありません。が帰りは往きに乗ったフェリーはローカル航路なので最終に間に合わず、鹿屋から40分ほど北上して垂水市からフェリーに乗り対岸の鹿兒島市鴨池に渡り1時間少し南下して指宿に帰ってきます。指宿に帰るのは9時か10時になります。

次年度は志布志教会に新しく赴任される先生が兼務して下さることになり、月一の鹿屋通いは1年で終わることになりました。

私は2つの教会・伝道所を担当するのは3度目でした。掛け持ちするのは大変ではありますが豊かな癒しを感じ恵まれました。求められていることに応える働きをしている喜びを素直に実感できるからだと思えます。普段の働きは日常の中

でこういったことに鈍感になってしまうのかもしれませんが。初心に帰ることができる、そんな感じなのかもしれません。

まんねりを感じているのではと感じたとしても、そうそう代務者や兼務を担当できるわけで



はありません。信徒の方ならなおさらです。

そこで互助献金です！ 互助献金をして初心に帰り神さまが必要として下さりこれに応えることのできる恵みと癒しを味わいましょう。

## 2017年度の謝儀保障援助金案(ほぼ)確定！

来年度の謝儀保障援助金の計算が終わり、常置委員会で承認をいただきました。謝儀保障援助金の受援教会は以下の11教会・伝道所となります。

**飯塚教会、行橋教会、唐津教会、武蔵ヶ丘教会、天草平安教会、国東教会、佐賀関教会、延岡三ツ瀬教会、高鍋教会、瀬戸内教会、徳之島伝道所。**

以上11教会・伝道所に対して総額約1850万円が計上されていますが、ここには教区人事によって後任者が決まりつつある徳之島伝道所への援助額がまだ算入されていません。これを加えますと、**2000万円前後**になるでしょう。

さてこの2000万円を捻出するための原資が問題です。2017年度の予算原案によりますと、互助負担金は735万円です。これに目標1100万円の互助献金を加えたものが原資ということになります。互助献金が目標額をクリアして満額入るとしても合計で1835万円。200万円ほどの資金ショートということになります。しかもこれは互助献金が目標に届いたと仮定しての話で、ここ数年目標未達が続いていることを考えると、かなり大きな単年度赤字になることが予想されます。これまでの積立があるとはいえ、このまま推移すれば10数年でそれも尽きてしまいます。互助制度を維持していくために、次年度の互助は是非とも全教会・全教師参加でがんばって参りましょう。

## もらってうれしね

好評をいただいている本コーナーですが、今回は提供いただけるお品が見つかりませんでした。どうか皆様の教会で不要になったもので、まだまだ他の教会で使ってもらえそうなものがあれば、教会協力委員会までお知らせください。

ちなみに、これまで以下のようなお品の提供を受けて、基本的に早い者勝ちで譲渡の取り次ぎをしてきました。譲渡成立の際は、感謝のしるしに互助献金などしていただけますと幸いです。



×20脚



## 互助献金2016年度中間報告(12月末現在)

2016年度も残すところあと2ヶ月となりました。熊本・大分地震をはじめ、わたしたちはたくさんの困難な出来事や課題に直面させられ、信仰者としての誠実な対応を迫られる大変な一年でした。各地の被災地・被災者を覚えてたくさんの献金がなされたことと思います。しかしそうかといって互助献金がおろそかにされてはなりません。困難な地でお働きくださっている伝道者の生活がかかっているからです。ところがここまでのところ、互助献金はおろそかにされていると申し上げざるを得ません。献金を献げて下さっている教会は、126教会のうち51教会、わずか40%です。全ての教師が収入の1%を献げる約束の教師互助献金に至っては26人の教師しか参加していません。献金総額は目標の84%の達成率に終わった昨年と比べてもさらに低い数値となっています。あと2ヶ月、祈りをもって、喜びをもって、責任をもって互助献金に励みましょう。

### 2016年度教会互助献金中間報告

	2016年12月末現在	前年同月
教会互助献金	<b>4,164,120円</b>	4,306,590円
うち教師互助献金	<b>731,900円</b>	984,600円
教会互助献金参加教会数	<b>51/126</b>	参加率わずか40%!
教師互助献金参加教師数	<b>26人</b>	年収の1%を!年度末にまとめてだときついですよ。

さて、今回は奮起を促す意味で、地区別の献金状況をまとめてみました。こうして表にすると、地区によって互助献金の取り組みに大きな格差があることが一目瞭然でわかってしまいますね。競うことではありませんが、他の地区のがんばりを励みとし、自らの反省として、今後の取り組みに活かしていただければと思います。

	昨年度最終	互助献金額	1教会平均	現主人あたり	教会参加率	教師参加率
北九州	1,173,370	362,300	18,115	671	0.35(7/20)	0.10(2/20)
福岡	2,695,344	1,450,000	76,316	1,319	0.58(11/19)	0.42(8/19)
筑後	533,627	292,000	41,714	2,147	0.57(4/7)	0.14(1/7)
佐賀	193,940	188,840	26,977	2,145	0.57(4/7)	0.00(0/7)
長崎	1,166,976	578,100	41,293	1,095	0.43(6/14)	0.21(3/14)
熊本	474,800	64,200	5,836	141	0.18(2/11)	0.18(2/11)
大分	1,223,050	473,720	23,686	1,077	0.30(6/20)	0.20(4/20)
宮崎	743,300	262,000	17,467	535	0.27(4/15)	0.20(3/15)
鹿児島	572,460	333,460	37,051	947	0.67(6/9)	0.33(3/9)
奄美	216,400	15,000	3,750	254	0.25(1/4)	0.00(0/4)
	9,248,964	4,164,120	33,049	995	0.40(51/126)	0.21(26/126)